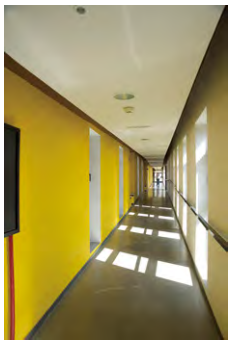
「スペインの老後の暮らし」

vol. 2 Trabensol

高齢者集合住宅トラベンソル

TEXTO/FOTOS = Yuji Shinoda

Trabensol
Calle Canal de Isabel II, 19,
28189 Torremocha de
Jarama, Madrid
Tel : +34 918 68 37 00
trabensol.org



上)棟ごとに廊下の壁の色が違い、間違えることはない

下左)ベランダは南向きにあり、中庭の庭園が見えるようになっている

下右)トラベンソルの正面。すべての建物は繋がっていて、外に出ることなくあらゆる部屋やホールに行ける

マドリードから北へ車で1時間（約60km）ほど走ったところにあるトレモチャ・デ・ハラマという小さな村（人口約1,000人）の郊外に、その施設はある。まわりは、遠くに低くなだらかな山々が見えるだけのほぼ真っ平らな土地である。

1992年、スペインでオリンピックと万国博覧会が開かれた年、マドリードから近い所に、将来自分たちが住むべき共同住宅を建てることを考え始めた人たちがいた。彼らは、2002年、まず住宅協同組合を立ち上げた。そしてトレモチャ・デ・ハラマに理想的な土地を見つけた。その土地の購入と住宅建設・維持のために組合員一世帯につき約1,900万円を出資し、54世帯で総額およそ10億2,000万円を集め投資して、2013年に「トラベンソル（Trabensol）」を完成させた。

広い中庭の周りに大食堂、共用ルーム、プール、図書室などが入った建物があり、そこから居住棟が長い廊下で繋がっている。すべてバリアフリー。居住棟の間には菜園があり、ベランダからは季節の花々をながめることができる。部屋にはすべて南向きの窓があり、50㎡の1LDK ＋ベランダという造りだ。現在の住人は64歳から87歳で、男女80人が暮らしている。住人は、マスコミ関係や医療関係など比較的裕福な中流層の人たちが多く、運営は住人である組合員たちの手によって行われ、太極拳教室、朗読劇、映画会などさまざまな活動が行なわれている。

生活費は2人世帯で、約16万円。1人世帯で13万円。有給のスタッフによる掃除や洗濯、昼食、電気、ガス、水道、通信費などすべてが含まれている。

初期投資が少し高額ではあるが、退去時には返還される。

広い美術室では、気ままに創作に励むことができる

中央庭園に面した明るい食堂での昼食風景。食事の給仕は住人たちがボランティアで行なっている

南側にある菜園に面したベランダでは、午前中の涼しい時間に太極拳教室が開かれていた

室内プールでは、専門家の指導のもとでリハビリが行われている

すべての部屋は南側に大きなガラス戸が配置され、室内は明るい

篠田 有史 / Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。【写真展】冨士フォトサロンにて『スペインの小さな町で』、『遠い微笑・ニカラグア』など。【本】『ドン・キホーテの世界をゆく』（論創社）『コロンブスの夢』（新潮社）、『雇用なしで生きる』（岩波書店）などの写真を担当。